

『本当に言われたの?』(創世記 3章 1-10節) 2021.6.27.

<はじめに> 「壊れた印刷機」と評されるほどの情報社会で、言葉が氾濫しています。しかもその内容、真偽、意図、目的もさまざまです。その中から信頼すべき言葉を見出すために、また間違った情報に振り回されないために、私たちは何に注意・注目すればいいのでしょうか。

I 神に造られた人(1-2章)

①神のかたちとして(1:26-27)

神はご自身に似た者として、人を造られました。他の被造物・生き物とは大きく異なります。人間らしさは「神のかたち」にあります。いのちの息を神が吹き込まれたからです(2:7)。霊的存在で人格を有し、意志・理性を働かせて道徳的な判断ができるよう造られました。

②ことばを交わす(2:18-23)

神は人に「あなたは…」と語られます(2:16)。神は人と語り、ことばを交わし、人格的な交わりを持つことを望まれて人を造られました。人も交わり・語らいの中に喜びを見出し、助け・励ましを得ます。その相手にと、神は男と女を造られました。

③神は何と言われたか(2:16-17)

神である主は…園の中央にいのちの木を、また善悪の知識の木を生えさせた(2:9)。神である主は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

II 人と蛇(3:1-10)

①蛇が話す(1)

蛇は、神が造られた生き物、人が支配するもの(1:28)の一つに過ぎません。それが人に話し掛け、誘惑します。賢さと語る言葉に、蛇の背後にいる霊的な存在、サタンが隠れています。彼は神のことばを改ざんして人に問い掛けます(3:1)。どう変えられているでしょう。

②蛇がだます(2-6)

女の応答は神の命令とどこが違いますか。蛇は女に「決して死にません」と断言します。神よりも蛇のことばに女が惹かれたのはなぜでしょう。女は蛇のことばを、何によって確かめようとしたのでしょうか。確かめる方法は他にあったのでしょうか。

③実を取って食べたので(7-10)

善悪の知識の木の実を食べた二人に、どんな変化がありましたか。その変化に彼らはどう対応しましたか。神は「必ず死ぬ」と言われましたが、彼らは死にましたか。神のことばが本当ならば、この変化の中に、神が言われた死があるはずですが。

III 目が開かれて

①ことばを確かめる

言葉が真実かどうかは、誰が何を言ったのかを戻って確かめることは基本です。それを自分の主観で判断したことで誘惑に陥りました。また、言葉の主を個人的にどれだけ知っているかも大切です。発言者がどういう人かを知るほどに、ことばの真意が見えて来ます。

②善悪を知る

5節で蛇は、神は本当のことを隠している、人も神のようになれるはず、と言います。これは神の創造の意図を曲げています。善悪の判断を完全にできるのは誰でしょう。人間にできるのでしょうか。目が開かれたとしても、神のようにはありませんでした。

③「必ず死ぬ」とは

蛇の言うとおり、肉体的には彼らは死にませんでしたが、神への愛と信頼は恐れに変わり、目は開かれましたが、神に造られた自分を恥じ、互いの違いを受け入れられなくなりました。もはや神を愛し信頼することができず、自分本位になったのです。

<おわりに> 今も人々は信頼すべき言葉を求めてうごめいています。神のもとに戻ることは人からはできなくなりました。しかし、神はなおも人を愛しておられ「あなたはどこにいるのか」と呼びかけられ、救いの御手を差し伸べておられます。それは 8 節以降に記されています。(H.M.)